

事業名

ネイチャーパーク活用ネットワーク事業
～生物多様性を基調とした森のようちえん・自然系プレイパークの実現に向けて～

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、200字以上～300字以内で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>事業実施回数については1事業を除き、数値目標を達成できた（生物多様性ジュニアスクールについては、主担当団体が変わったこと、実施内容の検討に予想以上に時間を要してしまったことから、今年度は親子体験入学コースとして1回実施し、次年度に本格実施することとした）。参加人数については達成率が50%から88%であり、一定の成果が得られた。ただ、各事業の実施に先立ち、参加者募集の広報活動が十分にできたとはいえず、担当者を増やしたり、広報媒体を拡げたりするなど、広報の仕組み全体の改善が今後の大きな課題となった。</p> <p>詳細は報告書8ページを参照</p>	2
2	市民性	<p>参加人数については達成率が50%から88%であり、一定の成果が得られたが、計画地の隣接地域に対するアプローチはまったく行うことができなかった。事業実現のためには平成25年度からの計画地での取り組みをどのように行っていくかが課題となった。市民の事業への評価については、ほとんどの参加者が実現を望んでおり、一定の効果が得られた。また、主体的に事業に関わっていきたいという参加者も多かった。事業報告会でスタートを切った子どもたちの保護者による事業サポーターも今後の活動に期待できる。</p> <p>詳細は報告書19ページから45ページを参照</p>	2
3	波及効果	<p>マルチステークホルダーの広がりとして、事業途中から参加団体や協力団体が増えた（参加団体1団体、協力団体3団体）。特に昨年後半から地元大学との調整に入り、学生グループとの今後の継続的な連携ができたこと、動画撮影の依頼によって環境保全団体とは系統の異なる市民団体とつながりができたことが大きな成果であった。最終報告会では事業の継続に関わる区民サポーターの立ち上げにこぎつけることができた。また、日本環境教育学会や全国公園緑地大会先進事例報告会での発表や全国都市緑化フェアでのブース出展、学会誌からの原稿依頼など外部とのコンタクトが盛んにおこなえるようになった。</p>	5
4	継続性	<p>今年度の助成金事業が終了した後は、平成25年度にその結果を具体的に対象地に落とし込む作業を現在の協議体で行っていく予定である（平成25年4月に区役所の組織改正があり、新たな担当者への引き継ぎが行われた）。さらに区の長期計画における平成26年度の公園</p>	4

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		設計委託、27年度、28年度の整備工事にも直接市民に係る仕組みを作っていく旨、最終報告会で担当課長並びに担当係長に伝えることができた。さらに区の長期計画にある公園だけでなく、都立公園など既存の大規模緑地での実現の可能性も視野に入れて活動を継続していく。	
5	マルチステークホルダー・プロセス	行政が事務局となり、市民団体 11 団体、企業 4 団体という構成メンバーで進めていく中、毎月 2 回の定例会議で進捗管理を行うことで、それぞれの持つ得意分野を生かしながら事業を進めることができた。例えば、事務処理や調整の得意な行政、各種の専門性を持った NPO・市民団体、広報力や発想力の豊かな企業が組むことによって申請時の計画を上回る事業として発展できた。一方、課題も多く残っており、一部の団体に各事業の役割分担が偏在してしまったこと、行政の参加が土木部局の担当課に限定されたことの 2 点が挙げられる。事業の成功には、会議体メンバーの一層の参画意識の向上や、行政内部の他部局のより積極的な参画が必要である。	4

合計点

17

ランク

A